大温室内の病害虫防除（カイガラムシ、すす病）について ～物理的防除を中心に

富澤まり・堀川大輔・永井親雄

はじめに

大温室内は、一年を通し温度を15℃以上に保ち、適度な湿度で熱帯性の植物が生育できる環境を整えている。その一方で、病害虫も生育しやすい環境であることから、適切な防除が欠かせない。

このたび、春から夏にかけてワタカイガラムシが大温室内で大増殖し、カイガラムシだけでなくカイガラムシの分泌物によるすす病の発生もみられ、植物によっては観賞価値を大きく損なった。このため、防除について再検討を行い、一定の効果があったので、その状況について記録する。

経緯

カカオ、コーヒーノキ、チャボイランイランノキやカタトゲパンノキなど、植物に近寄って観賞する熱帯樹木上では、病害虫の発生による観賞価値の低下が著しかった。特に目立ったのがワタカイガラムシの増殖で、植物撮影時等に植物体に害虫が映り込むことが頻発した。

定期的な薬剤散布は行っていたが、十分な効果が出ているとはいえなかった。

そこで、農薬散布について見直しを行うとともに、物理的防除を行ったところ、効果があった。

物理的防除の方法と結果

① 剪定

徒長枝やふところ枝などの不要な枝は定期的な剪定を行い、風通しをよくした。また、病害虫が発生してしまった枝については、早期に剪定し、新しい枝をふかせた。剪定した枝は、大温室外に持ち出し、病害虫の増殖を抑えた。

② 散水による樹上の害虫の吹き飛ばし

大温室内のキャットウォークからホースを用い、強い水圧で病害虫を洗い落すイメージの散水を行った。このことで、植物体に付着したカイガラムシ等が植物体から落ち、繁殖を抑えることができた。また、すす病などの表面の汚れも洗い流すことができ、植物体全体の観賞価値が高まった。

③ 歯ブラシを利用してのこそげ落とし

コーヒーノキなど、特にスロープから間近に観察する植物については、歯ブラシを利用し、カイガラムシを落とす作業を行った。歯ブラシは、ブラシの毛の先端が細くなったタイプを使用した。芽を傷めないように注意しながら、丁寧にカイガラムシを落とした。落としたカイガラムシはペーパータオル等にまとめ、温室内から除去するように努めた。同時にすす病もふき取った。

これらの物理的防除により、ワタカイガラムシの塊を見ることが劇的に少なくなり、すす病の発生も抑えることができた。

さいごに

病害虫防除については、予防的な薬剤散布のほかに早期発見・早期対応が不可欠である。今後も、注意深く日々の観察を行い、害虫の発生を早期に発見し対応することで、健康な植物を育成し、観賞価値の高い植物を展示できるよう努めたい。

写真１　カタトゲパンノキの葉裏についたワタカイガラムシ

写真２　カタトゲパンノキのすす病